

早稲田の杜

Vol. 37

2019・春

～ 2018年度の講座より

世阿弥を読む

竹本 幹夫先生

～ 2018年度の講座より

正岡子規の世界

越後 敬子先生

目次

02

「知の開拓」

講師インタビュー 原 章二先生

受講生インタビュー 金子 圭太さん

04

サタデーレクチャー

～早稲田の杜の教養シリーズ～

06

早稲田の杜を歩く

ワセモリギャラリー

07

単位・修了・紺碧賞のご案内

修了生・紺碧賞受賞者のメッセージ

08

稲修会

インフォメーション



EXT

早稲田大学
エクステンションセンター

哲学は芸術と同じ。人生を豊かにするものです

哲学と聞くと崇高な学問というイメージを抱くかもしれませんが、「哲学者は天才ではありません。もしかして分らず屋になるのかもしれない、と僕は思うんです」と原先生。「哲学のあゆみ―思想の巨匠たち―」(秋期)で教えているのは、カントやヘーゲルといった古典哲学からキルケゴールやニーチェまで、19〜20世紀を代表する哲学者たちの思想。「ソクラテスやプラトンなど、哲学者は普通の人が考えていることが理解できず、自分の考えが否定され、なぜなのか悩んでいるうちに哲学者になったんです。哲学は数学のように正解があるわけでもな

く、全てがファジー。だから、学ぶ方も気楽に構えていいんです」。そう聞くと哲学に對するハードルが一気に下がります。

原先生は政治経済学部に入學後、文学部仏文科に転部。研究の中心はフランスの哲学者アンリ・ベルクソンです。

「だいたい哲学者は難解な言葉で哲学を論じますが、ベルグソンの表現は分かりやすい。また彼は哲学者でありながら、『イメージ』について論じ、後の映像文化論に大きな影響を与えた存在でもあるのです」。自身も映画好きという原先生。哲学とは単なる思想にとどまらず、映像、絵画、文学の

発展に寄与したとは興味深い話です。

そんな哲学の講義を受けるのはどんな人なのでしょう? 「意外と理系の方が多い印象です。若い頃に興味はあったものの正反對の仕事に就いて、定年退職したので勉強してみよう!といった感じでしょうか。男性が多く、40〜50歳代から80歳代までいらっしやいます。自分より年上で人生経験も知識も豊富な方が多いので、教え方の切り口や手法は常に模索しています」。冬期はフロイトやユングなど哲学者以外にもフィロドを広げ、同じ問題意識を別の思想から考える講義を実施。また今夏以降は、「愛」(勞

働)「自由」「時間」などテーマ別に哲学者の考えを紹介する内容も構想しているとか。「そうすればもつと受講生同士で話ができ、能動的な講義ができるかもしれません」。

さまざまな学問がある中で、哲学を学ぶ意味とはどこにあるのでしょうか? 「哲学がなくなっても世界は滅びません(笑)。ですが音楽のようなものだと思います。なくなると何か大事なものが欠けたように感じ。受講生には、単に知識をつけるだけでなく、常識を疑い、自分の生活を見直し、人生を豊かにするためのきっかけをつかんでほしいと思います」。

教える人

原章二先生



(ほろしろうじ) 早稲田大学名誉教授。早稲田大学政治経済学部を経て文学部卒業後、パリ大学修士・博士課程を終え、哲学博士(パリ大学)。専門分野はフランス近現代哲学・美学。著書に『人は早である』(彩流社)、『いのちの美学』(学陽書房)、『近代の映像』(青戸社)等。訳書にベルクソン『精神のエネルギー』、『思考と動き』(平凡社ライブラリー)等がある。

担当講座

「哲学のあゆみ―思想の巨匠たち―」
「ベルクソン哲学に学ぶ」
「フランス語〔初級〜中級講読〕」

ちのかいたく
開拓

原先生の 学びの提言

著・訳書紹介

『思考と動き』(平凡社ライブラリー)
ベルクソン自身が書いたベルクソン哲学の方法論指南。持続と直観というベルクソン哲学の根本を、彼以前の哲学との異同にも触れつつ解説。『精神のエネルギー』と対をなす絶好の入門書。

『いのちの美学』(学陽書房)
「いのち」「生きていくこと」について、哲学、文学、映像……と、さまざまなジャンルから考察。「ただ存在して感じていること」はそれだけで美しい。「生」の正しさをやさしい言葉で綴る。



知の



金子圭太さん

2018年度 受講講座

「西洋哲学の基礎を学ぶ」
「ハイデガー哲学入門」
「ニーチェ『ツァラトストラ』を読み解く」
「哲学のあゆみ ―思想の巨匠たち―」
「ハイデガー『存在と時間』を読む」
「ヤスバース『哲学的信仰』を読み解く」
「和食を知らないといけないでしょう」

学 ぶ人



原先生の著書を見ながら歓談する金子さん。

なんと金子さんは17歳。早稲田大学エクステンションセンターの中で最も若い会員です。お母様の勧めで2018年4月から通い始めたそうですが、受けているのは「和食を知らないといけないでしょう」を除き、全て哲学。なぜその若さで？

「たまたま図書館で借りた『自由とは何か』という本を読んだのがきっかけです。最初は難しかったけれど、読むうちに理解できるようになり、もっと知りたくなりました。哲学って、やめられなくなるんです」。

原先生の講義は「哲学のあゆみ―思想の巨匠たち」が初めてですが、それぞれ違

う先生の講義を受講しているからこそ得られることも多いといえます。「教える人によって見解が全く違うのが他の学問にはあまりないですね。例えば原先生はハイデガーについて批判的だけれど、他のハイデガー研究者の先生は正反対のことを言っていたり。でも僕は納得できることは取り入れて、理解できなければ放っておきます。自分が好きな部分だけ吸収すれば良いかなと」。興味がある哲学者については本を読んだりさらに学びを深めるそう。ちなみに今読んでいるのは原先生に勧められたキルケゴールの『現代の批判』だそうです。

自宅に帰ると、講義で学んだことを両親に話すといえます。頭の整理をすることで、初めて自分の理解できなかったことが理解できたりするのだとか。「母に『何言ってるの?』って言われることもあります(笑)。これまでに学んだ哲学を生活の中で役立てたりするのでしょうか? その問いに、金子さんはきつぱりと「何かに生かす、というものだとは思っていません」と答えました。「趣味の一つだと考えています。そもそも突き詰めれば人生自体も趣味で成り立っているというか、人間的衝動が先にあるのではないかと。例えばお金を稼ぐ

のが目的ではなく、そのお金を使って楽しむため。ご飯を食べるのも、空腹を満たすというより、美味しいという感動を得るため。目的と結果の区別はいらなと思うんです。哲学も何かに役立つからやるのではなく、自分が楽しいからやればいいと思っています」。

若さを感じさせない達観した回答は、さすが哲学講座の受講生。これから哲学にとどまらず、心理学や経済学など気になる講座をどんどん受けようと考えているそう。飽くなき探求心に満ちた目が、キラキラと輝いていました。

何かに役立つから、ではなく自分が楽しいから学んでいます

早稲田の杜を歩く

早稲田大学歴史館 編

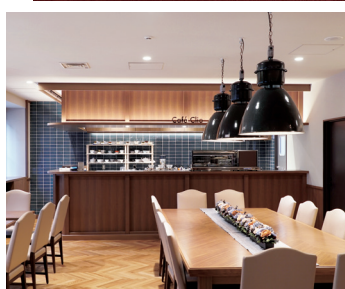


早稲田キャンパス1号館1階に開館した早稲田大学歴史館。常設展示と企画展示ルームのほか、映像・プログラムを視聴できるシアタールームや早稲田の歴史等を調べることでできるリサーチルームがあります。早稲田大学の過去・現在・未来をお楽しみください。



▶常設展示Ⅰ「久遠の理想」エリア

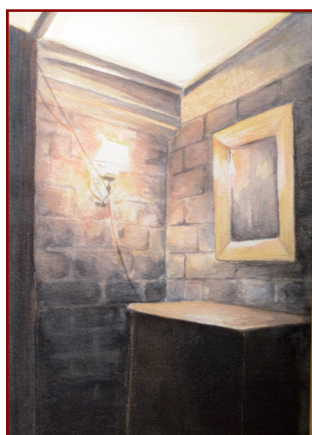
歴史館の開館日・アクセス・お問い合わせはホームページをご覧ください
<https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/rekishikan/>



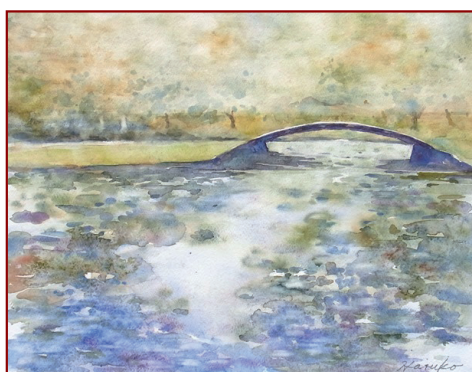
▲館内はカフェも併設されています



▶常設展示Ⅲ「従ゆる甕」エリア



「タンゴ喫茶の片隅」
墓石 康子さん（2002年入会）



「睡蓮（小石川後樂園）」
山口 治子さん（2008年入会）



受講生の作品をご紹介します

ワセモリ
ギャラリー

今回は早稲田校「風景の詩Ⅱ」（南口清二先生）、中野校「西洋書道 カリグラフィー教室」（阿部久代先生）の講座を受講された方々の作品を取り上げました。

「風景の詩Ⅱ」（早稲田校）



「椅子にかける少女」
大杉 邦雄さん（2008年入会）



「クリスマスに」
受講者10名と講師の共同制作

「西洋書道 カリグラフィー教室」（中野校）

単位

修了

紺碧賞



単位

オープンカレッジの講座には独自の単位が設定されています。(90分授業×5回＝7.5時間で1単位)講座では、出席カードにより出欠を確認します。全授業回数の2/3以上の出席をもって所定の単位取得となります。(ビクターの方を除く。)

目指せ！修了生

76単位を取得されるとオープンカレッジ修了となり、次年度のオープンカレッジ開講式にて「修了証書」を授与します。修了後は終身会員となり、以後の会員更新料が不要となる他、早稲田大学の「推薦校友」に推薦可能となります。また、修了生の親睦組織「稻修会」にもご入会いただけます。

推薦校友とは

早稲田大学の卒業生・教職員校友・推薦校友・早稲田大学名誉博士は「校友」と呼ばれます。推薦校友は、早稲田大学校友として推薦される要件を満たし、早稲田大学の同窓会組織「早稲田大学校友会」に承認された方を指します。「早稲田大学校友会」の正会員となります。

憧れの紺碧賞

さらに取得単位が150単位となりますと「オープンカレッジ紺碧賞」を授与します。紺碧賞はオープンカレッジの最高峰です！

紺碧賞メッセージ

「新しいことへの挑戦を継続」

岡山 宣孝さん(2003年入会)



ハードな日々の仕事を辞めた後、戦国時代を学びたいと思い、堀新先生の「信長公記」などの講座を受講しました。

受講しているうちに、日本史を系統的に学びなおしたい気持ちが強くなり、早稲田大学第二文学部を受験し学士入学しました。城郭に関心があつた為、築城家・藤堂高虎に関して主に取り組みました。四年生の夏、黒田智先生に大学院受験を勧められたのですが、英語で不合格。一念発起し英語を学び直して、翌年合格。大学院は修士まででしたが、その後もオープンカレッジの講座を受け、現在は関心が近世に移ったので、深谷克己先生をはじめとした近世関係の講座を受講しています。

早稲田大学には、新しい挑戦に促してくれる機会があります。これからも学んでいきます。

修了メッセージ

「目指すは紺碧賞！」

紙京子さん(2012年入会)

以前から興味のあるエクステンションセンターに入会したのは、入学した長男が、頼んだその日にパンフレットを持ち帰ってくれた翌日でした。西洋史を中心にそこから派生して建築史、哲学、現代の世界情勢等を受講しています。イギリス(スコットランド)史のM先生の講座は、先生・講義はもちろんのこと、受講生の皆様も学識・教養豊かな方々ばかりで、仲良くしていただき感謝しております。そのなかの一人がおっしゃった「講義を受けることで点だった知識が線になり、線が面になって行く。」とはその通りで喜びを感じています。早稲田大学で学びたかったのに専攻のピアノ科がなく諦めた若い日。長い時を経て今、若者達と同じキャンパスで学び青春を取り戻しているようです。自ら教鞭をとり最も愛したキャンパスの一角で、嬉々として学んでいる娘の私を父もどこかで見守っていることでしょう。

修了メッセージ

「新たな出会い」

佐山 隆一さん(2011年入会)



定年を機に、浅学非才の身ゆえにより深く学ぶ場所を探しておりましたところ、出会えたのが早稲田大学オープンカレッジでした。受講した中でも特に「江戸東京の風景学」の講座は生まれも育ちも東京の私ですら、意外に知らない場所が多く素敵な出会いでした。また、朗読の講座を受講するようになってからは、声も出しやすくなり、かつ、それまで食事のときに物をよく詰まらせていましたが、見事に改善することができました。講座の方々と親しく交流でき、楽しい時間を過ごしています。今まで専門的な仕事をしていたので狭い世界でしたが、講座に通うようになって自分の世界が広がりました。今まで築いてきた関係を大切にしながらこれからも継続して学んでいきたいと思っています。

サタデーレクチャー

早稲田の杜の教養シリーズ

早稲田大学エクステンションセンターでは、注目の研究者や専門家をお招きし、様々なテーマを取り上げる「サタデーレクチャー」早稲田の杜の教養シリーズ」を2018年度秋学期より継続して開催することになりました。今回は2018年12月に行われた第1回、2019年1月に行われた第2回の講演の模様を抜粋してご紹介します。

アメリカ中間選挙の結果から見る「トランプ大統領とアメリカ」

アメリカ合衆国の中間選挙は予算や人事などに関わる重要な「中間テスト」

米連邦議会上院予算委員会にて連邦公務員として国家予算編成に携わった経歴を持つ中林教授は、冒頭で11月6日に行なわれたアメリカ合衆国の中間選挙（以下、中間選挙）が持つ重要な意味を指摘しました。

「アメリカでは日本と異なり予算も法律の一部であり、上院下院ともに通過しなければ成立しません。政権政党が選挙で上院下院ともに議席を多く獲得できればいいですが、そうでない場合、"Divided government"（分割政府）※となり、政策運営に支障をきたすことがあります」。

※日本では「ねじれ国会」
そういった意味で「米中間選挙は、トランプ大統領にとって重要な中間テスト」と表現し、その主な特徴について、振り返りました。

特筆すべきは、アメリカの中間選挙史上最多の女性候補者数だったこと。セクハラ

問題に声を上げる「#MeToo」運動が巻き起こる中、女性蔑視の発言が目立つトランプ

大統領に對抗し、民主党は女性候補者を立てる戦略をとった結果、民主党の女性候補者はうなぎのぼりに人気を得ました。この現象は「現在のアメリカ社会の一部を表わしている」と中林教授は指摘。

さらに、通常は4割前後にとどまる投票率が今回は5割に上り、50年ぶりの大快挙といわれるほど高かったことも注目できると触れました。

データで見る得票率、支持率

中間選挙の特徴としては、若い世代もシニア世代も投票する人が多かったことが、高い投票率につながったと中林教授は指摘します。特筆すべきは、若い世代は圧倒的に民主党支持者が多く、45〜60歳は共和党支持が半数を占める点。「トランプ大統領はこうしたデータは必ずチェックしているでしょう。若い人の民主党支持率は圧倒的

で、かなり冷や汗をかいたはずですよ。

今回の出口調査を見ても、非白人の支持者は圧倒的に民主党支持であり、ミレニアル世代（1981〜2000年生まれ）はヒスパニックが20%を占めています。人種の関係なしにしても、18歳から29歳の若者の67%が民主党に投票しています。保守的な共和党に危機感が生まれるのは当然で、白人や年配の共和党支援者が投票所に足を運ぶ動機となり得ているそうです。

さらに、2012年と2006年の人種別人口構成（米国情勢調査局、米商務省）のデータをもとに、2045年の人口構成をみると、中南米系のヒスパニックが増え、白人が少数派に転落すると算出されています（ブルッキングス研究所調べ）。これらのデータは共和党支持者層の人口が減少することを示唆していると説明。

「ここまで触れてきた投票率、支持率の傾向についてトランプ大統領が脅威を感じずにいたとしたら、そして共和党支持者たちの投票率を上げる努力をしなかったならば、民主党が大勝した可能性もありました。トランプ大統領にとっては逆風だったので、投票へ向けて保守的な支持層の危機

感を煽った結果、それに対抗する民主党支持層も危機感を募らせ、最後にはオバマ大統領やバイデン副大統領まで引っぱり出して演説してもらったといった抗戦劇があったのですが、過去にそういった例はほとんどなく、そういう意味でも前代未聞の中間選挙でした。結果的に、歴史的な投票率の高さにつながったと思われます。」

これからのトランプ政権と政局について

「数々のデータをふまえて、中間選挙を終えた今後について、長期的な視点から見た場合、共和党はトランプ大統領のやり方を続けながら生き残れる術はなく、変化を余儀なくされるでしょう。共和党支持者の投票率が非常に高いという強みは継続するかも

■ 中林 美恵子氏



早稲田大学社会科学総合学院教授。大阪大学博士（国際公共政策）、米ワシントン州立大学修士（政治学）。元衆議院議員。経済産業

業研究所研究員や財務省財政制度等審議会委員など歴任。米国在住14年のうち10年間は米連邦議会上院予算委員会の連邦公務員（共和党）として国家予算編成を担う。跡見学園女子大学准教授、米ジョンス・ホプキンス大学客員スカラー、中国人民大学招聘教授等を経て現職。『トランプ大統領とアメリカ議会』『グローバル人材になれる女性（ひと）のシンプルな習慣』『トランプ大統領はどんな人？』等多数。

しませんが、上述のように、ミレニアル世代の民主党支持率の高さをはじめ、人口・人種の比率や推移、若い世代や女性、多様な人種の活躍ぶりを見ると、長期的な傾向は明らかです。一方で、民主党はリベラル派が大量に当選したことで、政党内統治が困難になっている側面もあります。だ

からこそ、両政党ともに良心的な候補者を揃えて党内改革をしていく必要があります」と、中林教授は指摘しました。

講座終了後は、多くの参加者から質問が相次ぎ、日本人にとってかわりの深いアメリカ政局への関心の高さが表れた会場は、熱気を帯びたまま幕を閉じました。

子どもの生きる力を伸ばす「哲学的思考」

哲学への理解が世界や物事を
明るく見るきっかけに

冒頭で、何事にも「なぜ？」という探究心を持つ子どもたちの思考は、哲学的であり、それゆえすぐれた哲学的思考は子どもたちにとっても役に立つと語る苦野先生。その考えに至ったきっかけは、自身

の子ども時代に関心を病んだ辛い過去と、やがて哲学に出会い、目の前の霧が晴れるような気づきを経験したことにあるといいます。後に恩師となる哲学者・竹田青嗣先生(早稲田大学名誉教授)の『人間の自由の条件』を読んだ後、近代社会の最も重要な原理である「自由の相互承認の原理」にたどり着き、人生を変える1冊になったと語ります。

『人間の自由の条件』には、「物事を相対化ばかりする論理は、結局は何も生み出せない」ということが書かれており、そこに深く共感するものがありました。たとえば、「どんな社会を作るか？」というアイデアに

対し、「それは間違っている」といった論法だけで返してしまうと、我々は対話も考えることの希望も失います。竹田先生はそうしたポストモダンの論法に巻き込まれないような非常に原理的な思考を打ち出し、次なる社会のビジョンを示していたことに胸を打たれました。

頑なだった心が哲学で溶かされ、
本格的に哲学の道へ

子どもの頃から孤独を抱え、「誰も理解してくれない」「理解されてたまるか」という思いを抱いていましたが、その奥底には、「本当は理解して欲しい」「愛して欲しい」という思いがあり、その欲望から反動的に「人類愛」というビジョンに行き着いたと、当時を振り返る苦野先生。

「思想家や哲学者は、誰もが人類愛に目覚めた人が表現していると本気で考えていたのですが、そうではありませんでした(笑) 哲学とは、まずは自分とことん見つめな

おし、『自己了解』を深め、また『自己吟味』が必要な作業だということを思い知らされました。」

哲学と出会い、その深い意味を知れば知るほど、これまでの偏った考えが溶けていくことを実感した苦野先生。

早稲田大学に進学した苦野先生ですが、人生を変えた一冊の著者である竹田氏が早稲田で教鞭をとることに。竹田氏の弟子としてさまざまな教えを得ることになった苦野先生。人類愛を世の真理とするのではなく、どうすれば多様で異質な人々たちの中で、お互いが認め合えるような社会を作れるかということに考えがシフトしていったそうです。

子どものための「哲学対話」のすすめ

子どもとの哲学対話で大事なものは、「ここまでいけば共通了解が得られる」という経験を子どもの頃からたくさん積むことだと語り、各自の持論を展開し、発言したまままで完結しがちな教育系のシンポジウムの例を引き合いに、対話する上での「共通了解の大切さ」について紹介します。

「大事なものは、どの次元まで『共通了解』が得られるかということです。もちろん、絶対の真理はありませんが、ここまでならみんなが納得できるというところまで対話することは可能です。子どもたちの間でもそれは可能です。たとえば、『友情とは何か？』という問いに対して、子どもたちはちゃんと共通了解を導き出せます。もちろん、最初のうちは哲学者のファシリテーターがい

た方がいいですが。よく、対話をするだけで、何の共通了解にもたどり着かず、『でも話し合えたことに意味がある』なんて言うて終わる対話の会がありますが、それだとどんなに対話を重ねても結局は何の解決も得られないものなのだと、対話への希望を失ってしまうでしょう。」

身近なテーマで「本質観取」をしながら議論を進める

「幸せとは何か」「正義とは何か」といった、身近な興味のあるテーマで子どもたちと話し合うことをおすすすめします。もちろん、絶対に正しい本質はありませんが、言葉のコミュニケーションを通じて、やはり共通了解を見出し合うことが大事なのです。お互いの経験を交換しながら言葉の的確なものにしていく作業によって、『本質観取』ができるようになります。物事の本質を見出し合うことが哲学の本質なので、そのマイルドで大人が上手にファシリテートしながら、子どもたちと対話してみてください。生きる力を伸ばす哲学的思考が育まれるはずですよ。」

身をもって哲学が人生に与える気づきと喜びを語る苦野先生の言葉は、ひとつひとつ重みと説得力がありました。

■ 苦野 一徳氏



熊本大学准教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(教育学)。哲学者・教育学者。著書に『「自由」はいかに可能か』(NHK出版)、『はじめての哲学的思考』(筑摩書房)、『どのような教育が「よい」教育か』(講談社)、『教育の力』(講談社)などがある。

15周年記念行事開催報告&新入会のご案内

日頃受講生の皆様にはさまざまな分野での学習に励みつつ、講友との語らいに人生の新たな楽しみをご経験されているのではなからうかと拝察いたします。頭書の件につき、以下の通りご報告とご案内をさせていただきます。

1. オープンカレッジ修了生の会である「稲修会」は昨年創立15周年を迎えたので、今後のさらなる発展への起点とすべく、「特別記念行事」を開催いたしました。

日時／会場：2018年5月26日(土) 於・早大構内／大隈会館2F
プログラム：年次会員総会(13:30～14:00) 記念祝賀懇親会(14:30～16:30)
参加者：計35名(エクステンションセンター所長他ご臨席)

当日は好天に恵まれ、和やかな楽しいひと時を迎えることができ、大変有意義な記念の会となりました。

2. 稲修会入会のご案内

オープンカレッジ修了生の会「稲修会」はともに研鑽を重ねた友人と語らいの場を持ちたいと思う修了生同士が集い、2003年5月に発足しました。2019年度も様々な行事を予定しておりますので、修了生の方は是非参画いただき、みなで盛り上げていきましょう。

会の目的：会員相互の親睦を図り、また会員と早稲田大学エクステンションセンターとの関係を密にし、その活動に協力するとともに、会員の生涯学習の充実に寄与する。

入会資格：オープンカレッジ修了証を授与された方
入会費：3千円(2019年4月以降)

入会を希望される方は、案内書をエクステンションセンター各校事務所に用意しておりますので、お申し出ください。

オープンカレッジ修了生の会
稲修会会長 藤野豊



急な休講が発生した場合は……

携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)を利用して休講のご連絡をいたします。迅速に休講情報をお受け取りできますので、ご登録がお済みの方は、以下の方法にてぜひご登録ください。

登録方法(会員の方)

- ①当センターホームページからMyPageにログイン
- ②「会員情報変更」をクリック
- ③画面下部の携帯番号欄に電話番号を入力
- ④最下部の「更新する」ボタンをクリック

※各校事務窓口でも登録可能です。
※携帯番号をご登録されていない方には、これまで通りお電話にてご連絡させていただきます。

会員先行申込の場合は……

会員先行申込の開始後、当センターホームページトップ画面内にピンク色のバナーが表示されます。バナー内の青い文字「こちらからログイン後」をクリックしてください。



Webから
お申し込みで
3%OFF!

「こちらからログイン後、」をクリック

Information

悪天候による休講時は……

雪、台風等の悪天候による全学休講は個別連絡をいたしません。

「早稲田大学緊急用お知らせサイト」で確認してください。



早稲田大学緊急用
お知らせサイト

https://blogs.yahoo.co.jp/waseda_public



PCやスマートフォンに登録をお願いいたします。

「早稲田の杜」は当センターホームページでもご覧いただけます。 www.wuext.waseda.jp

早大 エクステンション

検索



EXT

早稲田大学
エクステンションセンター

発行

早稲田大学エクステンションセンター
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

TEL:03-3208-2248 FAX:03-3205-0559 e-mail:wuext@list.waseda.jp